



ケベック州の教育

概要



Québec 



ケベック州の教育

概要





背景

広大な土地

ケベック州は人口およそ 750 万人で、地理的には北米大陸の一角にあり、広大な半島を形成している。面積は 170 万? で、フランスの約 3 倍、日本の約 5 倍にあたる。州域の大部分は森林に覆われ、そこに数千におよぶ湖や河川が点在している。州の西から東へとうとうと流れるセントローレンス河は、世界有数の航路であり、北米大陸の主要水路となっている。州人口のおよそ 80% はセントローレンス河の流域に居住している。州人口の半分を擁する都市圏の中心モントリオール、そして周辺部を入れると人口 70 万人を数える州都ケベックもこの河沿いにある。

人口構成

先住民族の住んでいたケベック州に、フランス、イギリスから次々と人が移り住み、その後も常に世界各国からの移住者で人口が増加してきた。現在毎年 38,000 人以上の新移住者を迎え入れている。出身国 150 カ国以上に及ぶこれらの移住者は、主にモントリオール地域に居住しており、地域人口全体の約 18.4% を構成している。ケベック州全体でみると、移住者の占める割合は 9.9% となる。

ケベック州の公用語はフランス語である。家庭で主に使う言語は、フランス語が 83.1%、英語が 10.5%、それ以外の言語が 6.5% となっている。英仏バイリンガルの率は 40.8% である。先住民族の大多数は固有の母語で教育を受けている。

州の管轄

カナダ連邦は英国型の立憲君主制をとっており、ケベック州はそのカナダを構成する 13 のメンバーの一員である。1867 年制定のカナダ憲法により、ケベック州は他の州および準州同様、教育関係の法律の採択に関しては独占的な権限を有する。

連邦政府には教育省は存在せず、州および準州レベルにのみ存在する。ケベック州では教育・レジャー・スポーツ省が政府機関として、学習意欲と能力をもつ市民にあらゆる教育へのアクセスの便を図る任を担っている。同省はまた、教育界の方向や活動が政府の方針全体と調和するものであり、ケベック社会の経済、社会、文化面における要請に応えるものであるよう留意する。ケベック州の教育制度下では、政府、大学、カレッジ、教育委員会および小中学校がそれぞれ責任を分担するシステムをとっている。

フランス語、 教育の言語

ケベック州では大多数の教育機関はフランス語で教育を行う。フランス語憲章に基づき、幼稚園および小中学校ではフランス語で教育が行われる。ただし、当憲章に規定された条件を満たせば、児童は英語系の小中学校に在籍できる。英語系の学校に通う児童数は州全体の小中学生数の約 11.2% となっている。カレッジおよび大学レベルに関しては制約はなく、学生はフランス語系、英語系どちらの教育機関でも自由に選択できる。

1967 年創設のカナダ教育相会議により、各州・準州の教育相は共通の関心のある分野において協同活動をとることが可能になった。

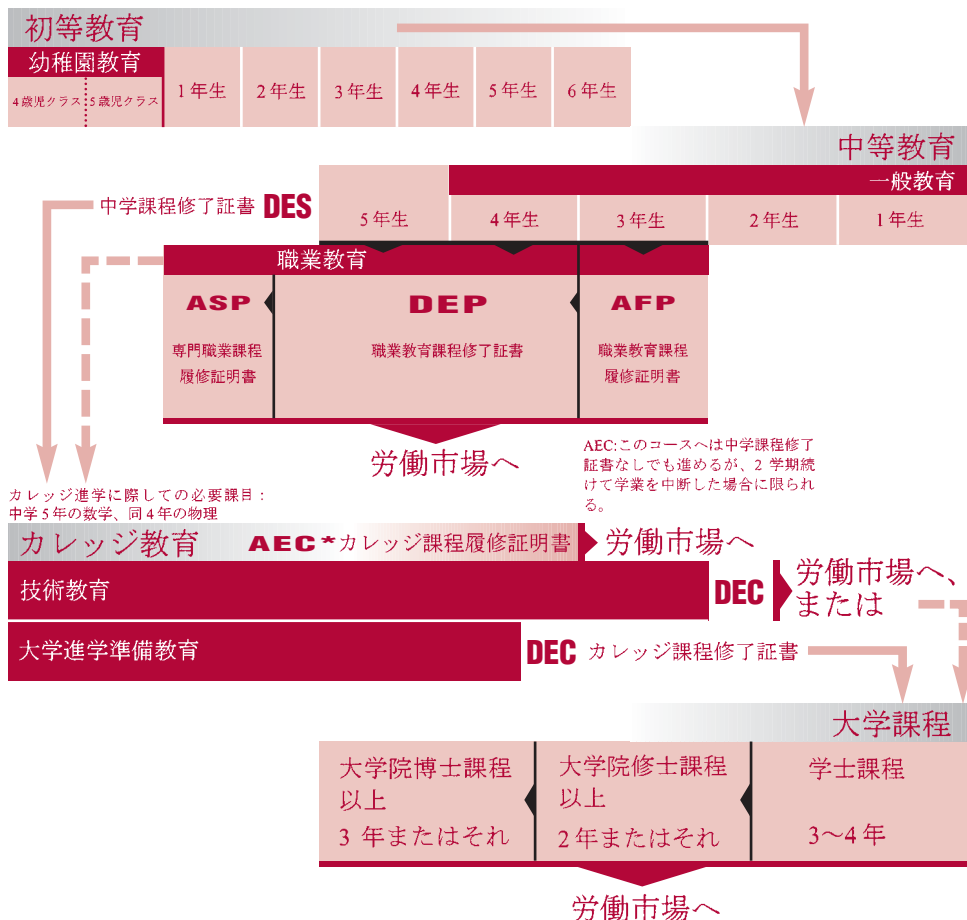
さまざまな学校進路



教育界のネットワークは公立・私立、仏語系・英語系の各機関からなる。ケベック政府は教育分野を重要視し、2003年度州内総生産の7.8%に相当する額を費やしている。因みにカナダ他州の平均は6.3%である。政府予算全体では、教育費は医療費に次ぎ、2位を占める。

教育制度は小学校（幼稚園を含む）、中学校、カレッジ、大学の4段階からなる。およそ180万人がいずれかの段階にフルタイム、またはパートタイムで登録している。小中学校、およびカレッジでは学費は無料である。一方、大学では授業料負担があるが、北米においては比較的低い部類に属する。

ケベック州学校制度



幼稚園および初等教育

小学校は6年制で、2年ずつ3つのサイクルに分かれている。入学は6歳児と定められ、義務教育は16歳までである。ただし、ほとんどの児童は幼稚園で1年早く学校生活を始める。幼稚園は1年制、1日クラスで、任意となっている。障害をもつ児童または貧困家庭の場合は4歳から半日クラスに通うことも可能である。

初等教育では一般教育の基礎科目に焦点をあて、児童の全体的な発達を促していく。自立性の段階的発達を図り、中学校への進学を準備する。公立の小中学校は教育委員会の下におかれており、運営は公選委員の構成する審議会により行われる。

中等教育

中学校は5年制で、前期後期の2つに分かれている。前期は3年間で、この間に小学校での学習を強化し、将来の職業を考慮に入れた選択を始めることができる。中学3年から一般教育は選択科目が増え、生徒はさまざまな学科（科学、アートなど）を学ぶことができる。中学5年間で生徒は中学課程修了証書（DES）を手にし、カレッジへと進むが、直接大学に入ることはできない。2003年度には青少年、成人を合わせ、82%が中学課程修了証書を取得している。この取得率はOECD（経済協力開発機構）加盟国全体の平均78%を若干上回っている。

中学校後期では職業訓練へとつながる職業教育コースもあり、中には中学3年で始まるものもある。職業教育コースは170以上あり、21の分野に分かれていて、このコースをとる生徒または成人は職業教育修了証書（DEP）を取得できる。その後必要に応じて、専門職業課程履修証明書（ASP）の取得へと向かう。中学3年終了後は、準専門的な職業資格のとれる職業教育課程履修証明書（AFP）取得を可能にするコースもある。

照準を定めて

小学校は、児童が将来一個の市民として社会の進歩に全面的に参加していけるようになることを最終目標とする。そのために、知識の習得のみならず、日々の生活上の問題に答えを見出し、個人および社会の価値観を身につけ、責任感と自主性に富んだ行動をとることが出来る能力を身につけるよう、段階的に指導する。



カレッジ教育

ケベック州教育制度の特徴の一つはカレッジレベルにあり、これは義務教育である小中学校と大学の間に位置している。

ケベック州には公立の一般および職業教育カレッジ（略して cégep、セジェップ）が 50 校ある。州助成金を受ける私立校も 21 校あり、公立同様、2 年間の大学進学準備コースおよび 3 年間の技術教育コースを有し、全課程を終了するとカレッジ課程修了証書

（DEC）が取得できる。すべてのカレッジには短期の技術養成コースもあり、履修者にはカレッジ課程履修証明書（AEC）が出される。

カレッジ課程修了証書は大学進学には不可欠なものである。大学進学準備コースは直接大学へとアクセスし、技術教育コースは労働市場へとつながっているが、この技術コースからでも、ある条件を満たせば大学進学は可能である。

公立カレッジはカレッジ関係法により定められ、教師、学生および地域コミュニティのメンバーからなる運営審議会によって運営される。

進路選択の柔軟性

中学校修了時に、進学する生徒はカレッジの技術教育コースまたは大学進学準備コースのいずれかに登録して、最初の進路選択を行う。将来の進路に関する選択がより明確になるのは、カレッジ在学中であることが経験上知られている。実際、多くの生徒がこの時期に、技術教育および大学進学用の多様なコースが共存する中で、自らの進路選択を真剣に見なおす。コース変更の可能性も大きく開かれている。

重要な経済的役割

公立カレッジは州内のあらゆる地域に分散し、各地域の社会、経済界を代表する層と密接に協力しながら、州の経済発展にダイナミックな役割を果たしている。こうした中から、31 のカレッジ技術移転センターが生まれ、それぞれが特定の分野で企業への応用研究活動および技術援助を行っている。これらのセンターは国内、国際両レベルで活躍している。

適切かつ効果的な職業技術教育

数年前からケベックでは多くの職業、特に専門分野における人材の需要がますます高まっており、それが職業技術教育を重視する理由となっている。学校で行う教育が適切なものであることを保証し、市場の新しい需要に教科内容を適応させるために、教科課程は労働界と協力しながら作成していく。

職業技術教育にはおよそ 300 のコースがあり、21 の分野に分かれている。技術コースは中学校およびカレッジの両方にあるが、その職業に要求される技術レベルおよび言語、数学・科学の知識レベルにより、どちらにコースを設置するかが決められる。中学における職業教育課程は、職業訓練センターと呼ばれる





施設で行われる。専門的あるいは準専門的な職業の実際を教えていくが、場合によっては職業教育課程修了者でも、カレッジで学習を継続することが可能である。技術教育コースは公立私立双方のカレッジにある。より幅広く長期にわたる教育を経て、専門技術職を身につけていく。

大学における教育および研究

ケベック州には 9 つの大学機関があり、その内でケベック大学はそれ自体 10 の分校からなるネットワークを形成している。州内の 7 つの地域にそれぞれ分校をおき、地方における大学教育へのアクセスを容易にしている。大学教育機関は独立法人として非常に大きな自治権を有している。

大学には、すべての学科を網羅する総合大学および専門大学（商科、工科など）がある。大学教育の構成は一般的に北米で見られる形に近いが、学士課程はカレッジレベルで専攻を開始している点を考慮し、4 年制ではなく 3 年制となっていることが例外といえる。

大学の課程は 3 つのサイクルに分かれている。1 つ目は学士号の取得を目指すもので、2 つ目はさらに 2 年間の学業延長に匹敵する修士課程、3 つ目は約 3 年の博士課程となる。1 つ目のサイクルである学士課程は、多様な選択が可能で、大学としてはさらに履修証明のように、専門知識を補足していく機会を提供している。ケベックの大学の授業料は北米でも最も低い部類に属する。

ケベックの大学修了率は先進国でも高い方で、同一世代 100 人のうち、3 分の 1 近く (29.3%) が学士号取得を目指している。

協同して行動を

職業教育および技術教育と実務間のより大きな調和をめざすケベック州政府の活動は、教育・レジャー・スポーツ省、労働省など関係各省と、教育界、労働界の各提携機関両者の協力が実を結んだものである。

学業へのアクセスを財政的に援助

教育・レジャー・スポーツ省は、財政的な問題が学業の妨げとならないように、奨学金プログラムを実施している。これにより、毎年約 133,000 人が中等レベルの職業教育課程ないしカレッジ以降の高等教育を続けている。カナダでも、また北米全体でも非常に有利なこの奨学金プログラムへのアクセスは、正式に認可された教育機関にフルタイムで登録しているケベック州在住の学生に限られる。

ケベックの隅々で

大学教育および技術教育の中には、地方の潜在能力を最大限に引出すことを目標にし、都市部以外に限定してコースを設けているものがある。セントローレンス湾を臨むガスベジ半島にあるガスベジ・カレッジで教えている魚介類の加工および海洋資源開発・生産の課程がこれにあたる。他にも、木材を産出するボワフラン地域にあるビクトリアビル・カレッジには、家具および加工木材の技術課程がある。

一方ケベック大学では、州のほとんどの地方に、各地方の代表的な経済分野に対応するユニットを作り上げた。セントローレンス湾にあるリムスキー分校では海洋学を、トロワリビエール分校では紙パルプ関連部門を、そして州北部のルアンノランダ分校では鉱山学を課目に加えている。

成人教育へのアクセス

成人教育は継続的な教育という観点から、ケベック州ではよく発達している。これにより成人は、基礎的な小中学レベルからカレッジ・大学の課程まで、補完的な教育を受けることができる。知識の必要性が目まぐるしく変化するこの時代に、継続的な教育により、技術やテクノロジーの能力を時代に即したものにし、あるいは新しい分野を学び、専門的な能力を獲得していくことが可能になる。同様に、カルチャー面を学びたい、社会的な向上を図りたい、などの個人のさまざまな要求に応えることにも貢献している。成人教育への容易なアクセスにより、教育は生涯を通じてのライフスタイルの一つとして市民の間に定着した。

フランス語を母語としない市民へのフランス語教育や識字教育も、一般を対象に教育機関または公的補助金を受けたコミュニティの自主活動グループにより行われている。

2002年、ケベック州は生涯を通じての学習を奨励する「成人教育・養成に関する政策」を発表した。

この政策は五カ年計画であり、既の実施されているものをもとにして、新たに対策を立ち上げる、強化する、あるいは方向を示し新しい息吹を吹き込む、などの諸点を眼目としている。現行のシステムに他のものを加えていくというよりも、成人および社会各層の多様なニーズに合わせ、一貫性のある取組みをしながら、その要求に応えていこうとするものである。

「成人教育・養成に関する政策」の実施は、ケベック州にとり、市民一人一人の能力開発を促す上で不可欠な要素となっている。



教育に関する政府方針および優先度

「秀でよ若者」と銘打った行動計画により、ケベック州政府は修了証書取得をもって教育の成功とみなすと方針づけ、次の点を優先的に行う。

- ・ 生徒の学業が成功するよう援助する
- ・ 言語能力を改善する
- ・ 職業面、技術面の養成を強化する
- ・ カレッジ教育の将来像を示す
- ・ 大学の質、容易なアクセス、財政を長期的に保証する
- ・ 各地方における経済的、文化的、社会的発展の中で教育が果たす役割を増大していく

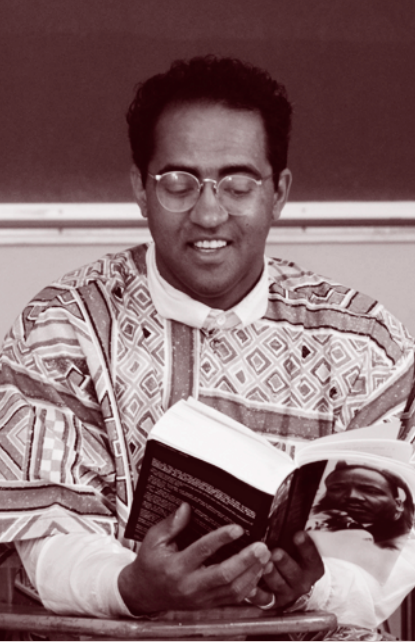
個々の生徒または学生の成功は、教育に関する政府活動の根幹をなすものである。この統合目標のもとに、教育分野のすべての関係者が力を合わせていく。

また、ケベック政府は公教育法を改正し、学校審議会の設立を図って、初等中等機関にこれまで以上の権限および自治権を付与した。この審議会は教師など学校関係者および父兄が同数を占め、今日、教育上、予算上の選択において権限の大きくなった学校当局にとり、この上ないパートナーとなっている。

教育・レジャー・スポーツ省はまた、主に基礎学科を強化し、教科の文化的内容を高め、児童が学習に積極的に参加することを目指した教科課程の大きな改革を行った。

最近同省は州内のすべての学校ネットワークで、戦略的な計画を体系づけた。この計画は学校の質を改善し、より多くの児童生徒の学業達成を図る具体的な手段を決定していくことをその中心にすえている。





世界を視野に

地球規模の思考がますます要求される今日、異文化や外国に関する知識は市民教育に欠かすことの出来ない要素である。このため、2002年、協力機関との広範な討議を経て、教育・レジャー・スポーツ省は教育の国際化についての方針を明らかにした。ここに謳われている戦略は、市民教育における国際的側面、学生および教師の可動性、ノウハウの輸出、外国におけるケベック州の影響力などを考慮に入れて練られたものである。

こうした文脈において、小中学校レベルでは、在校生に見られる出身国の地理的、言語的、文化的多様性に基づいた異文化教育および市民教育に重点を置くことが奨励されている。また、学生による大学



間の可動性および言語習得を中心とした交流の増大が優先事項となった。これに伴い、ケベックの学生がケベック州外で学業を続ける、あるいは逆に州外の学生が当州で勉強を続けることを可能にするプログラムが多く存在する。この点に関しては大学機関が特に活発で、ケベック諸大学と世界各国の大学の間数多くの交流協定が締結され、年間、外国人留学生 21,300 人以上、カナダ他州からの学生約 15,800 人を受け入れている。

カレッジレベルでも同様に留学生を受け入れている。これらのカレッジの多くは現在、特に南米、北アフリカ諸国の技術教育分野で活躍している。

教育・レジャー・スポーツ省としても、二カ国間協力協定を通じ、あるいは仏語圏会議などの国際フォーラムに参加することで、盛んに国際的な活動を行っている。

教育、ケベック全市民の未来に関わる 根本的な争点

ケベック州の教育制度に見られる多様性およびその質は、互いに尊重し、協力し、活発な交流を行うことによって、世界に広く自らを開いていきたいと願う社会にとっては、大変貴重な切り札である。すぐれた教育制度を有し、OECD 各国の内でも学歴、修了証書取得率は最も高い方に数えられる。ケベック州の児童生徒は国際数学理科コンクールで好成績をおさめ、常に OECD 諸国およびカナダ全体の平均を上回っている。これらの結果に大変励まされながらも、ケベックはなお意欲的に、教育レベルのさらなる向上をめざし新たな目標に挑んでいく。

ケベック州の教育についての詳細は、下記へお問い合わせください。

教育・レジャー・スポーツ省 カナダおよび国際担当局

1035, rue De La Chevrotière, 18^e étage
Québec (Québec) G1R 5A5
Canada

Téléphone: 418 644-1259
Télécopieur: 418 646-9170

ウェブサイト：
www.mels.gouv.qc.ca



*Éducation,
Loisir et Sport*

Québec 